

第5学年1組 外国語科学習指導案

【日時】令和4年11月1日(火) 11:00～11:45 【場所】多目的室3 【指導者】牛尾 美穂

本授業の主張点

佐賀の魅力を再発見し、留学生の佐賀に対する興味・関心などの思いを受け止めた上で、伝える内容を考えるなど相手意識をもって工夫して伝える児童の姿をお見せします。

1 単元名 Welcome to Japan. (*New Horizon Elementary English Course 5 Unit 7*)

『佐賀のすてき』を伝えよう！

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、*New Horizon Elementary English Course 5 Unit 7* (以下 *NH*) を基にコミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定に合わせてアレンジしたものである。日本や地元佐賀の魅力を再発見し、郷土に誇りをもって留学生に伝えることをねらいとしている。新型コロナウイルス感染症が流行し、自由に国内外を移動したり、対面での学習や交流をしたりすることが制限されるようになって数年が経つ。児童が日本各地のよさに触れる機会は減少したと思われる。一方で、マイクロツーリズムが提唱され地元の魅力を再発見することにつながることも考えられる。このような状況の中で日本や佐賀の魅力を再発見する機会にもなる単元である。また、外国の人々から見た日本や佐賀についての思いを受け止めた上で、伝える内容を考えるなど相手意識をもって伝えることができる考える。なお、話すこと(やりとり)において簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようになることを目指す本単元でのやり取りは、中学校外国語科での簡単な語句や文を用いて即興で話すことへとつながっていく。

(2) 児童について

本学級の児童は、これまでに自分の名前や好きなもの、誕生日や学びたい教科、なりたい職業を伝える活動に取り組んだ。Unit 3 *What do you want to study?* の学習では、自分の夢に近づくための時間割を考え、ペア活動で友達と伝え合った。その後、多くの児童が学級の友達みんなの前で自分が学びたい教科やなりたい職業について発表することができた。このように慣れ親しんだ表現を使おうという意識や友達に進んで自分の考えを伝えたいという気持ちをもっており、外国語の学習に意欲的に取り組んでいる様子が見られる。一方で、やり取りをしているときに、“Me, too.”と反応する声はよく聞かれるが、さらに会話を広げていくことには課題がある。そこで、*Small Talk* を通じて対話を続けるための指導に力を入れているところである。

(3) 指導について

単元構成を考えるときには、単元のゴールを「佐賀の魅力を留学生に伝えよう」とし、そこから逆向き設計で単元内容を組み立てた。指導に当たっては、単元の導入で、現在の社会状況を理解するとともに、事前アンケートの結果とコロナ収束後に行ってみたい国ランキングというデータから本単元のゴールについて考え、学習の見通しをもたせる。一般的なデータだけでなく留学生のリアルな声を聞くことでより相手意識・目的意識を明確にして学習に取り組めるよう留学生からの声をビデオレターを通じて聞かせたい。まず日本について伝える活動に取り組み、それから地元佐賀に焦点化し伝える活動へ進むよう構成する。内容を変えながら繰り返し言語活動に取り組ませ、伝えるための工夫に気付かせていきたい。身近な人物紹介をするときに扱った英語表現“*This is～*.”、“*You can～*.”や人物の性格や様子などの既習表現を活用し、食や自然、文化について伝える言語活動に取り組ませる。なお、活動においては、*New Horizon Elementary English Course 5 Unit 7* をベースに、*We Can! 2 Unit 2* (以下 *WC*) を組み合わせ、単元の目標に迫る。そして、いずれの言語活動においても中間指導を効果

的に取り入れ、いかに既習表現を使って日本や佐賀の魅力を伝えられるか、相手に配慮した伝え方の工夫にはどんなものがあるのかを考え、共有したい。単元終末では、自分が伝えたいことを表現するために必要な英語表現を選び、伝えるための工夫をしながら伝える姿を目指す。

(4) 深い学びについて

本単元で児童が働かせる見方は、留学生に佐賀のことを知らせ、佐賀をもっと好きになってもらうという「相手意識・目的意識」を期待する。そのために、留学生と自分の考えや気持ちを比較したり、関連付けたりすることで伝える内容を考えることができるようにしたい。考え方については、「一貫性と結束性の理解、表現」を働かせることを期待する。効果的に『佐賀のすてき』が伝わるようにテーマに一貫性をもたせたり、内容がつながるように語彙の結束性をもたせることができるようグループ内で振り返ったりグループ間でアドバイスをし合ったりして評価する時間を設ける。以上の「外国語科における見方・考え方」と、全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿を関連させると、表1のようになる。

表1 本単元で目指す「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本単元及び本時における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	留学生の置かれている現状を踏まえて、相手に佐賀のことを知らせたい、もっと好きになってもらいたいという思いを膨らませて、伝える内容を考えている。また、より分かりやすい伝え方を目指して粘り強く取り組んでいる。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	留学生が佐賀についてどんなことに興味をもっているのか、相手の思いを受け止めた上で、自分が伝えたい佐賀の魅力を考え、それを伝えるための表現を選んだり考えたりしている。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	意味を捉えることが難しい表現は何度も場面に合わせて聞いたり話したりすることで意味を捉えている。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	実際に留学生と伝え合う活動を通して、伝えることができた内容や伝え合えた喜び、うまく伝えられなかったことや次に生かしたい点について振り返り、地域社会で実際に伝え合う意欲や自信をもっている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	社会科や総合的な学習での学びを生かして伝える内容を考えている。

3 単元（題材）の目標と評価規準

(1) 単元の目標

日本や地元佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の行事や食べ物、観光地などについて具体的な情報を聞き取ったり、自分が伝えたい日本や佐賀の魅力について、伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自分が伝えたい内容を、例文を参考に音声で十分慣れ親しんだ語句や表現を用いて書き写すことができる。

(2) 評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> 日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などに関する語句や、Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現について理解している。 <技能> 日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などに関する語句や、Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などを用いた内容について聞き取る技能を身に付けている。	・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている。	・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて話されるのを聞くようとしている。
話すこと(やり取り)	<知識> 日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などに関する語句や、Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現について理解している。 <技能> 日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などに関する語句や、Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。他者の反応を見て伝えるための工夫をして伝え合おうとしている。
書くこと	<知識> 日本や佐賀の自然や食べ物、場所などに関する語句や、Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現について理解している。 <技能> 日本や佐賀の自然や食べ物、場所などに関する語句や、We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書く技能を身に付けている。		

4 単元指導計画（全9時間 本時7/9時間目）

時	主な学習活動 (○)	指導上の留意点 (・)	評価			
			知	思	主	
1	○ALT や留学生の話聞いて、故郷の国の特徴を聞く。【Small Talk】 ○留学生と日本や『佐賀のすてき』を伝え合うという単元のゴールを決める。単元ゴールへの見直しをもつ。	・自分が予想していた内容と比べながら聞くよう促す。 ・社会の状況と留学生の思いから、佐賀の魅力を伝える意欲を高めるため、相手意識・目的意識を明確にもたせる。				※ 本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
2	○3つのヒントを聞いて、どの行事や建物、食べ物について話しているか考える。 ○日本のすてき双六で日本各地の行事や建物、食文化について伝える英語表現に慣れ親しむ。	・既習表現を用いてヒントを提示し、これまでに学習した英語表現が活用できることに気付くことができるようにする。 ・双六ゲームを通して、楽しみながら繰り返し既習表現に慣れ親しむことができるようにする。				※ 本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
3	○ALT の好きな日本食についての話を反応しながら聞く。【Small Talk】 ○Let's Try (NH/p.69) 日本にある年中行事とその行事で食べるものについて尋ね合う。	・ALT の話を反応しながら聞く活動を通して、相手意識をもった話しの聞き方や対話の続け方が理解できるようにする。 ・年中行事とその行事で食べるものを関連付けてやり取りができるようにする。	聞			・日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などに関する語句や、Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現について理解している。【知・技】
4	○3つのヒントを聞いて、どの行事や建物、食べ物について話しているか考える。 ○佐賀県の市町とそこで有名な行事や建物、食文化について結び付けて伝え合う。	・既習表現を用いてヒントを提示し、これまでに学習した英語表現が活用できることに気付くことができるようにする。 ・知っていることや他教科で学習したことを関連付けて伝え合うよう促す。		聞		・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている。【思・判・表】
5	○ALT が好きな佐賀の場所やイベント食べ物やALT が感じる佐賀のよさなどについての話を反応しながら聞く。【Small Talk】 ○佐賀県の市町とそこで有名な行事や建物、食文化について自分の考えや気持ちなどを加えて伝え合う。	・相手意識をもって話を聞くことができるように、ALT に伝えたい佐賀の魅力について考えながら聞くよう促す。 ・事実だけでなく、自分の考えや気持ちを加えて伝えることで思いを乗せたやり取りになるようにする。		聞		・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて話されるのを聞こうとしている。【主】
6	○グループごとに伝えたい内容を考える。 ○『佐賀のすてき』を伝え合う。	・誰に、どんなことを、何のために伝えるのか確かめる。 ・グループで考えたり、英語表現を言ったりして自己評価をするよう促す。また、他のグループに伝えることで、相手に伝わるか確かめたり、伝え方について考えたりできるようにする。	や			・日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などに関する語句や、"Why do you like ~? We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。【知・技】
7	○教師が考える佐賀の魅力についての話を反応しながら聞く。【Small Talk】 ○『佐賀のすてき』を伝え合う。 ・他のグループと伝え合う。 ・アドバイスを合ったり分かりやすく伝えるための工夫を考えたりする。	・どんな表現を使っているか、どんな工夫をしながら伝えているか考えながら聞くよう促し、児童が自分のやり取りで生かせるようにする。 ・英語表現や伝え方がより分かりやすくなるようにするため、グループ同士で積極的にアドバイスを促す。 ・中間指導を行い、よい点を共有したり、困り感があれば全体で解決策を探ったりする。		や		・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。【思・判・表】
8	○佐賀の魅力を留学生に分かりやすく伝える。 ○留学生の話聞く。	・本時の言語活動の目的（留学生に佐賀をもっと好きになってもらうために佐賀の魅力を伝えること）を確認する。 ・その場で留学生に質問をしたり、留学生からの質問に答えたりしている姿を称賛する。 ・伝え合った後の留学生の感想を聞くことで、伝え合った達成感を味わうことができるようにする。また、伝え合ったことでお互いの考えや気持ちにどんな変化があったかを知ることで、これからのコミュニケーションに対する意欲を高めることができるようにする。		や	や	・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。他者の反応を見て伝えるための工夫をして話そうとしている。【思・判・表】 ・日本や佐賀の魅力を伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。他者の反応を見て伝えるための工夫をして話そうとしている。【主】
9	○アルファベットソングを歌う。 ○英語で書く時のルールを確認する。 ○文字の高さに気を付けて四線上に書く。	・留学生に読んでもらうという目的を確かめ、モデルを見ながら丁寧に書き写すことができるようにする。	書			・日本や佐賀の自然や食べ物、場所などに関する語句や、We have ~ in ... You can ~. It's ~. などの表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書く技能を身に付けている。【知・技】

5 本時の指導 (7/9)

(1) 深い学びの姿

学習活動に見直しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	○
「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	○
知識が概念化し、知識の質が高まっている。	
学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	
他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	

(2) 指導目標

日本や地元佐賀の魅力伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、伝えようとする内容を整理した上で、他者に配慮しながら話すことができるようにする。

(3) 評価規準

イ 日本や佐賀の魅力伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。【思・判・表】

(4) 「見方・考え方」を働かせる手立て

- ・ 「相手・目的意識」という見方を働かせて伝える内容を考えることができるように、単元ゴールや伝え合う相手である留学生の考えや気持ちを確かめる。また、「一貫性と結束性の理解、表現」という考え方を働かせて、情報を整理しながら考えを形成し、再構築することができるように、伝え合う相手の考えや気持ちと自分が伝えたい考えや気持ちを比較したり、関連付けたりするよう促す。

(5) 展開

学習活動と児童の反応 (□□□□)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 教師が考える佐賀のよさについての話を反応しながら聞く。【Small Talk】 (5分)</p> <p>・お茶は飲むだけじゃないんだ。 ・写真を見せるとわかりやすいな。 ・問いかけると相手の考えや気持ち分かるね。</p>	<p>1 既習表現を用いたり、途中児童に問いかけたりしながら話す。</p> <p>T: Hi, everyone. I like Saga very much. We have tea garden in Ureshino. You can drink green tea. It's delicious. Do you like green tea? I like green tea. Look at this. You can enjoy "chazome". Do you know "chazome"? "Chazome" means coloring with tea. It's interesting.</p>
<p>2 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。(5分)</p> <p>・留学生に佐賀の魅力伝えて、もっと好きになってもらうんだ。</p>	<p>2-(1) 前時の振り返りからよくできたこと、できなかったところを紹介することで、どんな工夫をすれば相手に分かりやすい伝え方になるのか考えるきっかけとする。</p> <p>2-(2) 単元終末の言語活動では、<u>誰と何のために伝え合うのかを確認</u>することで、本時の活動の目的を明らかにし、活動意欲を高める。</p>
<p>留学生に日本や佐賀をもっと好きになってもらえるように、内容や伝え方を考えよう。</p>	
<p>3 佐賀チャンツを言う。(5分)</p> <p>・習った英語表現を使って伝えられそう。</p>	<p>3 映像を見ながら佐賀の自然や食べ物、行事や観光地やそれらを伝える英語表現を声に出すことで、自分が伝えたい内容や既習表現を想起することができるようにする。</p>
<p>4 条件に合わせて、すすめたい佐賀の魅力伝える。(5分)</p> <p>・相手が知りたいことは伝えたいな。 ・佐賀には他にも魅力あるから、それも伝えたいな。 ・紹介するときの英語表現が使える。 ・どんなことができるか伝えよう。 ・自分の経験も伝えたら、より魅力が伝わりそう。</p>	<p>4(1) <u>相手意識をもって、伝える内容を選ぶことができるように、伝える相手の設定を伝える。</u></p> <p>4(2) 慣れ親しんだチャンツを参考に、どんな英語表現を使うとよいか考えるよう促す。</p> <p>◆ 日本や佐賀の魅力伝えるために、日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っているか。 【思・判・表】<行動観察・発言・振り返りカードの点検> B 日本や佐賀の自然や食べ物、行事や観光地などについて伝え合っている。 C→ 伝えたい内容を確かめ、絵カードを並べながら英語表現を一緒に声に出す。</p>
<p>5 『佐賀のすてき』を伝え合う。(20分)</p> <p>C1: Hello. I like Saga. We have Balloon Festival in autumn. C2: Balloon Festival? Nice! C1: You can see many balloons. It's colorful and beautiful. C2: Do you like Balloon Festival? C1: Yes. I like Balloon Festival.</p>	<p>5-(1) 内容を確かめるため、まずグループ内で一度声に出し、その後に伝え方をよりよくするため、他のグループと伝え合うという活動の流れを確認する。</p> <p>5-(2) <u>内容面と表現面での工夫につなげることができるように、同グループ内での振り返りやグループ間でのアドバイスを</u>する時間をとる。</p> <p>5-(3) 後半の活動がより充実するように、活動の途中でできたこと、できなかったことを全体で振り返る。</p> <p>5-(4) <u>相手意識をもった伝え方や聞き方を称賛したり、うまく伝えられなかった内容や言えなかった英語表現などについては既習表現を活用して伝える方法を児童と一緒に考えたりする。</u></p>
<p>6 本時の活動を振り返る。(5分)</p> <p>・写真を見せたり、大事なところは繰り返すと分かりやすいよう。 ・相手が知りたいことだけでなく自分のおすすめも伝えられてよかった。</p>	<p>6-(1) 伝えるときに工夫したことや、本時の活動で少しでも前よりできるようになったことなどについて記述している児童の振り返りを全体で共有する。</p> <p>6-(2) 単元のゴールを目指して繰り返し取り組んできた児童の姿をほめ、自分の考えや気持ちが伝えられるようになってきたことを認め、児童が次時の活動に対して期待と自信をもって取り組めるような言葉掛けをする。</p>